

九州大学の幅広いエネルギー研究領域で共創する

地域GX戦略研究 人材育成プログラム

2027年6月～2028年3月開催

2027年度コース参加者募集

仮登録受付を開始しました

脱炭素・GX技術を基礎から学び、
グループワークで事業化戦略を考える。
九州大学での学びをそのまま実践へ

大学×仲間の力で、
GX事業化戦略人材を
育てましょう



地域GX戦略研究 人材育成プログラム

参加登録費：10万円／1名（仮登録は無料）

対象者 主に企業や自治体等に所属し、GX戦略の策定や実行について学びたい方

目的 地域社会の未来を切り拓く知識・実践力の提供

参加登録費の一部は、博士課程でGX研究を実施している学生の支援に活用させていただきます

仮登録※は
こちらから

（仮登録は無料）

※仮登録いただいた方には2027年4月以降
に本登録のご案内を送付いたします



※本プログラムは、九州大学が文部科学省に採択されたFCVI事業の成果に基づいています。
FCVI事業とは、「FCVIサイクル（未来技術予測・連成解析・価値評価・インキュベーション）による世界最先端エネルギー研究教育
拠点の整備」事業です。



お問い合わせ窓口
九州大学エネルギー研究教育機構（担当：松崎教授、ユ准教授）
e-mail: qgrep@qgrep.org
〒819-0395 福岡市西区元岡744



仮登録※は
こちらから

（仮登録は無料）

※仮登録いただいた方には2027年4月以降
に本登録のご案内を送付いたします



GX戦略を担い、 共創できる人材を育てたい

地域GX戦略研究・人材育成プログラムは、九州大学の強みであるエネルギー関連のシーズ技術を
基盤とするGX(グリーン・トランスフォーメーション)戦略研究を通じた人材育成を目的とし、
基礎から学び、実行力を身につけたい方(主に企業や自治体に所属する人材)を対象としています。
GXを学び、脱炭素への取り組みと同時に、
企業や自治体の成長戦略や地域戦略へとつなげていきませんか。
私たちが、皆様のスキルアップをサポートいたします。

対象 ●GXの基礎知識を体系的に学び、自組織の戦略に活かしたい方 ●異業種交流を通じてGX人材ネットワークを構築したい方
●企業の経営企画、サステナビリティ部門、技術開発部門のご担当者 ●自治体の環境、地域振興、産業経済政策のご担当者 など

GXに重要な3つの知見を備えた人材育成をご支援します



脱炭素化 技術と制度の基礎知識

GXの基礎となる技術と制度の
知識を体系的に学びます。



中長期のGX事業と 技術の戦略

所属組織や地域の中長期的な
成長を見据えた、実効性のある
GX戦略の描き方を実習。



産学官の ネットワーク構築

異業種交流により、GX推進のため
のネットワークが構築できます。



2027年6月
▼
2028年3月

プログラム スケジュール

毎月 第3木曜 13:30～15:00 (変更の可能性あり)

対面開催の回は九州大学伊都キャンパスで実施
(リモート参加も可、アーカイブ動画視聴あり)

0
orientation
6月

対面開催



【オリエンテーション】

プログラム概要説明
自己紹介・意見交換・名刺交換など

A
7・9月

リモート

アーカイブ動画
視聴あり



【GX技術の基礎知識】

九大がGX研究シーズを有する56技術領域の
基礎知識と研究シーズを紹介

B
10月

リモート

アーカイブ動画
視聴あり



【脱炭素化制度の基礎知識】

環境省認定資格 脱炭素アドバイザー
ベーシックレベルの基礎知識

C
11月

リモート

アーカイブ動画
視聴あり



【事業化戦略の基礎知識】

新技術の事業化戦略
及びLCA(ライフサイクルアセスメント)の基礎

D
12月

リモート

アーカイブ動画
視聴あり



【地域の課題・ニーズ】

地方自治体のGX課題・ニーズの共有

E・F
1・2月

対面開催



【E:ケーススタディ】

技術の事業化に関する事例研究

【F:戦略研究(実習)】

グループに分かれて実施
A～Eを踏まえ、それぞれの技術領域について
事業化戦略を議論

※F終了後、戦略案を各自持ち帰り3月までに更新・提出して修了となります

学びの終わりは
新しい共創の始まりです

プログラム修了後の フォロー体制



ご希望の方には、九州大学と
の共同研究をはじめとする
産学官でのGX価値共創など
具体的な実行に向けた相談
も受け付けます。



ご参加頂いた法人等には、
次年度プログラムへの新た
な参加者登録を優先して受
けけます。

九大がGX研究シーズを有する 56技術領域

洋上風力・太陽光・ 地熱産業



①次世代風力発電 ②次世代型太陽電池
③次世代型地熱発電 ④営農型太陽光発
電(ソーラーシェアリング) ⑤超伝導

水素・燃料アンモニア



⑥低温型燃料電池 定置用/車載用(PEFC) ⑦高温型燃料電池 定置用
/車載用(SOFC, PCFC) ⑧電解水素製造(PEMWE, AWE) ⑨次世代電
解水素製造(SOEC, AEW) ⑩光触媒による水素製造(人工光合成) ⑪水
素・アンモニア貯蔵、輸送、燃焼、利用 ⑫水素・アンモニア製造(プラズマ等)

次世代熱エネルギー



⑬e-メタン ⑭熱電変換技術 ⑮ヒート
ポンプ技術 ⑯熱エネルギー貯蔵(蓄
熱、蓄熱材料、熱輸送)

原子力



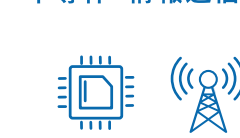
⑰核融合実用化に向けたトリチウム関連技術
⑱核融合プラズマ技術 ⑲核融合炉第一壁や革新炉
向け高温、対照射性材料 ⑳次世代原子力発電技術
㉑高速炉を用いた放射性廃棄物低減

自動車・蓄電池



㉒自動車の電動化、インフラ整備
㉓空飛ぶクルマ ㉔自動運転、MaaS
㉕次世代蓄電池

半導体・情報通信



㉖次世代半導体(パワー半導体から半
導体 ㉗次世代通信(Beyond 5G(6G)、
LPWAN等) ㉘次世代データセンター

船舶



㉙船舶の脱炭素化

物流・人流・土木インフラ



㉚スマートシティ(ネーチャーベースを含む)
㉛ドローン物流(電力Gr) ㉜ゼロエミ建設(建
設機械および施工システム)

食料・農林水産業



㉝バイオ炭 ㉞バイオマス循環利用 ㉟農業
の脱炭素化(スマート農業) ㊱生物多様性
(環境保護等)

航空機



㊲航空機の脱炭素化(電動化、水素、
バイオジェット、合成燃料) ㊳宇宙船・
航空機のエネルギー効率向上

カーボンリサイクル・マテリアル



㊴CO2を原料とした化学品、材料(触媒反応) ㊵CO2を原料としたカーボ
ンニュートラル燃料(触媒反応) ㊶CO2を原料とした化学品、材料、CN燃料(人
工光合成) ㊷バイオマスを原料とした化学品、材料 ㊸バイオマスを原料と
したカーボンニュートラル燃料 ㊹CO2の貯留、固定化 ㊺CO2の分離回収

住宅・建築物・ 次世代電力 マネジメント



㊻エネルギーマネジメント
システム ㊼ZEH、ZEB

資源循環関連



㊽LCA解析 ㊾未利用または廃棄
物からの資源回収 ㊿次世代リサ
イクル技術 ㋀廃棄物系バイオ資
源(下水等)の活用技術

ライフスタイル関連



㋁GHG排出の可視化 ㋂行動変容によ
る脱炭素化(ラベリング、ナッジ、シェア
リング等、新技術の社会受容性) ㋃地域
脱炭素化モデル ㋄カーボンクレジット
㋅気候変動に対して強靱な都市インフラ